

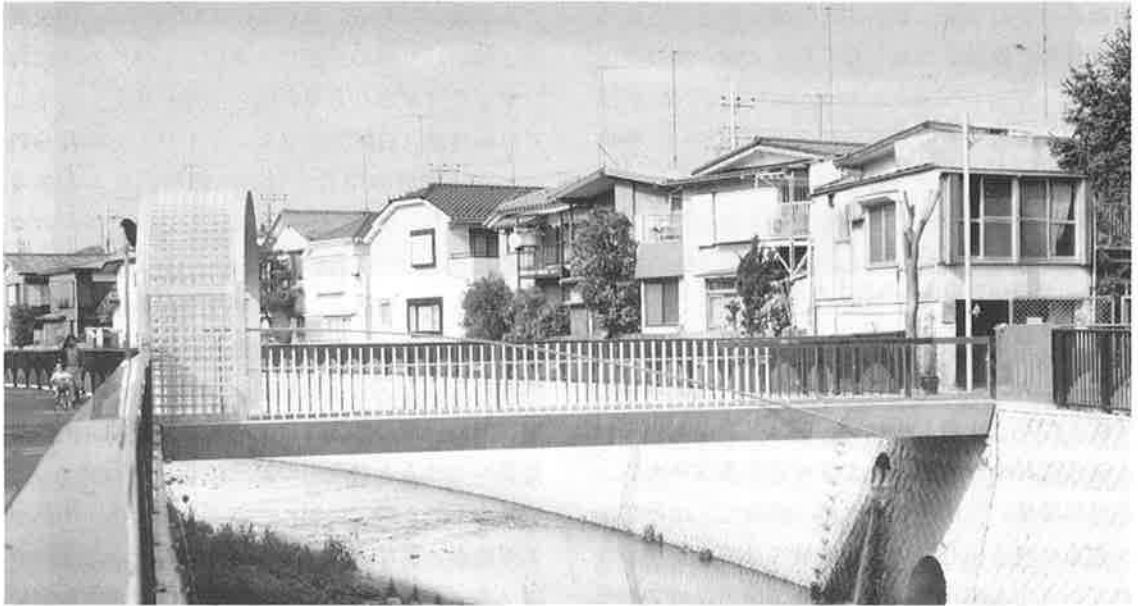
財団だより

多摩川

1993. 6 第58号



ギンブナ（コイ科）
マブナとも言う。多摩川では中
流から下流にかけて広く分布す
る。



平成4年に完成した仙川の祖師谷中橋
(世田谷区上祖師谷6丁目)

■多摩川現風景■

(14) 仙川のモダン橋

橋が自己主張をはじめたと言えば大げさかも知れないが、あちこちでユニークなデザインの橋が登場している。人が渡ればいい、車が通ればいいという段階から抜け出て、橋を楽しく渡るための仕掛けや川面からの眺めに配慮したデザインが要請されている。

この写真の橋は世田谷区上祖師ヶ谷の駒大野球場近くの仙川に架けられた人道橋で、祖師ヶ谷中橋と呼ばれている。若い女性デザイナーによるもので、世田谷区の架橋整備事業の一環としてデザインされた。ガラス、アクリル、ステンレス等、今までの橋にはなかった素材が使われている。デザインにしろ、素材にしろ、既成の橋のイメージとは大きく異なるものの、何だか改修された護岸の景観とピタリという気がしないでもない。その意味ではモダンな川にモダンな橋とでも言えよ

う。川とはそもそも云々…など難しい話とは無縁で、あっけらかんとしている所が良いという評も聞いた。仙川ではこの橋をはじめ世田谷区による6橋がモダンな橋に整備されようとしている。散歩のついでに見比べるのもおもしろい。

●関連する財団の助成研究 (No.は報告書番号)

〈一般研究〉

- ①架橋による多摩川の地域文化の変貌と環境破壊の調査研究 1981年
石井作平 たまがわこども文化の会 (No.14)
- ②日野市による水路の生物環境、景観要素および利用意識調査による環境特性の研究
1989年 渡辺一二 多摩川美術大学 (No.58)
- ③絵画にあらわれた河川景観の変遷
岡村直樹 フリーライター (現在研究中)

多摩川散歩

——山合いを流れる小仏川——

浅川地区環境を守る婦人の会 加藤文江

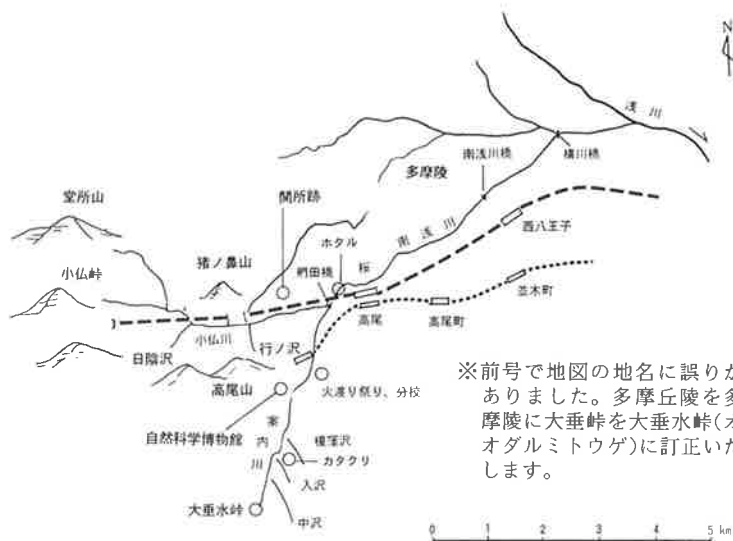
小仏川は高尾山の北、裏高尾を流れ、中流で川の沢、日陰沢、堂所山を源とする小下沢、小仏峠を源とする流れが合流、淵をつくり、瀬を流れ旧甲州街道沿いに東流し案内川と合流。南浅川となる。

3月の“梅郷まつり”林の会の人達と流域を上流に向かって歩いてみた。甲州街道（20号）、桐田橋を右に折れ、左岸を上流に向くと川沿いに梅林が続く。病院を過ぎると昔懐かしい家並みを思わせる旧甲州街道と平行して歩く。駒木野関所跡では、いち早く春を告げるサンシュユの花、梅の香りと、野立ても見られ、普通のひっそりとした風景とは違って変り、華やいている。若人、家族連れで街道も人の列が絶えることがない。川幅はさして広くなく、水量も少ない。昔は舟遊びも出来たと云う荒井のあたりは、大きな岩が重なり合い、溪谷の風情。又街道のバス停（蛇滝口）には名水が豊富に湧き出している。流域には護岸工事がされているが右岸は草が生い茂り、岸边にはアブラチャン、サイカチ等も見られ梅林が続く。流れは蛇行し、ヤマメやカジカガエルが棲み、夏にはホタルも飛ぶ。モリオアオガエルの産卵もある。ナルコスゲ、ハナネコノメ、ヒメ

ニラ、コチャルメルソウ、ニリンソウ等季節毎に楽しめる。遊歩道は左岸から右岸に、老人ホーム附近（行の沢）で旧甲州街道に出る。右岸の林道は蛇滝林道。右側に猪の鼻山（標高200m足らず）左側に梅林がある。ここは高尾山にトンネルが掘られる、圏央道計画のジャンクション予定地で、毎年7月圏央道反対3000人集会が開かれる。自然保護団体、地元住民団体で高尾山を守り、計画に反対

する方法の1つとして、高尾型ナショナルトラスト（借地権）運動、立木トラスト運動が行なわれている。昔からこの地域では川の水を生活の中に利用し、沢の水も飲料とし（去年まで）、まさに川と向き合って暮して来た。井戸も共同井戸で、愛称をつけ大切に使われて保存されている。少し歩くと左岸に「SOS子どもの村」、裏山に炭焼がまが置いてある。そして山の中腹には、中央高速道路が通り車の音がうるさい。上流の右岸にカラマツの林があり若葉の頃は一段と美しい。そして日陰林道（日陰沢）フユノハナワラビも見られる。この地域の地名の付いた植物、タカオスマレ、タカオスゲ、コボトケスマレ。レモンエゴマも小仏川沿いで発見されて命名されたのだそうだ。小下沢入口近く、フサザクラが数10本見事な花を咲かせる、一見の価値あり。道は2つに分かれ右に入ると、小下沢林道、やや行くとキャンプ場、沢の景色は木洩れ日を通して幻想的。沢を更に登りつめると堂所山の源流に着く。

又小下沢入口と反対に左の道を行くと、小仏バス停終点、更に進んで宝珠禅寺に着く。ここのカゴノキ（天然記念物）は一人ではかかえきれない大きな立派なものだ。この先の山道を入り雑木林を進むと小仏川のもう1つの源流を見ることが出来る。一度、小仏川を訪ねてみませんか。



私と多摩川



空から見たニヶ領用水上河原堰と調布の多摩川

調布生活者ネットワーク 江 刺 益 子

● ふるさと碓氷川の思い出

蔵王からの吹き下しが来る盆地を流れ下る川。アユが手が届きそうに群れている。あみですくってみるが絶対にとれない。父と七才上の兄は急流の中でとも釣り。夏はカッパが飛び込む。小さい子供は深みには近づかない。もっぱら浅瀬で、バクダンを連発する。ガジカや子魚が隠れていそうな石に手ごろな石をたたき付けて、気絶して浮いて来るのをつかまえる。そうやって1日が暮れる。しかし久しぶりに訪ねた碓氷川は川底の丸石がまるで魚の腹のように白くごろごろと横たわっていた。仙台市の水がめ釜房ダムが造られ私の原点の川は瀕死の状態となった。

● 『多摩川土手にパーゴラ』が一転して

昨年12月。今年の調査活動は終了して年越しの準備をと思っている所へ多摩川の土手上に、コンクリート製のパーゴラ（日陰）を年度内につくる計画があるという情報が飛び込んできた。急拠調布市との話し合いの場に同席することになった。多摩川の土手に人工物はふさわしくない。それよりも不足しているトイレを作ってほしいなどの要望が出されたが、市民要望があるから計画は変えられないとの回答だった。しかし寝耳に水の話でどうも納得できない。「よし、もう一度堤内地を

調べに行こうよ」と生活者ネットのメンバー4人で急ごしらえのわくわく調査隊を結成し翌日早速調査に出かけた。多摩川のあたりから上流へ向かっていくと、スポーツ広場付近にトイレ用地に最適なスロープ付の場所を見つけた。「反対よりも対策を」の日ごろの主張どおりに、再度調布市と建設省京浜工事事務所へ要望書を提出した。年が明けて、再度話し合い。結果としてパーゴラはつくらない、代わりに車イスの方も使用できるトイレを設置しますという返事をいただくことが出来た。

● 多摩川を愛する人たち

パーゴラについて市に意見をとの手紙に直ぐに対応してくれた方達がいた。いつも多摩川に心をかけ、情報をいち早く発信し行動する人たち、多摩川の自然を愛する人たち。その人達が多摩川を見守っている。又いろいろな立場の人の声を聞くことが出来た。その中で車イス使用の方の「自分の力で、車イスで多摩川の河原に降りてみたい」という声にハッとさせられた。私達は、多摩川や野川や湧水の恵みを無造作に受けとっているがその事に気づいていない。

このパーゴラ事件(?)をとおして“わたしの多摩川”に一歩近づけた気がする。

よみがえ

甦れ！多摩川

■谷沢川を行く

山道省三

世田谷区の上用賀を流頭とする谷沢川（旧名、矢沢川）は、約3.8kmの小河川で、等々力溪谷を経て多摩川に流入する。東京農業大学や馬事公苑のある一帯は桜丘や上用賀と呼ばれる微高地になっていて、かつて玉川上水の分水である品川用水が通っていた。「世田谷の河川と用水」（世田谷区教育委員会 1977年）によると、おそらくこの品川用水によるしみ出し水やわずかな湧水が水源となっていたのではないかとしている。現在、この水源あたりは暗渠になっていて、一部世田谷区による「いらか道」と呼ばれる遊歩道になっている。川が見え始めるのは、東急田園都市線の用賀駅近くの首都高速道路の高架下からで、玉川通り（国道246号）を越えると見事な桜並木が続く。川そのものはコンクリート護岸に改修されているが、新たに植栽された所やヤナギの大木の並木など新旧の植栽帯が続く。そして、中町二丁目の住宅地の中には農業用水の分水堰が今も残されていて、かつての田園風景の中の流れが思い起こされる。この堰から下は、流れは一段と低い谷を蛇行しながら溪谷の佇まいを見せ始め、やがて等々力溪谷へと続いていく。

等々力溪谷は都区内に残された珍しい自然溪谷で深い谷底は神秘的な趣きにつつまれている。こ

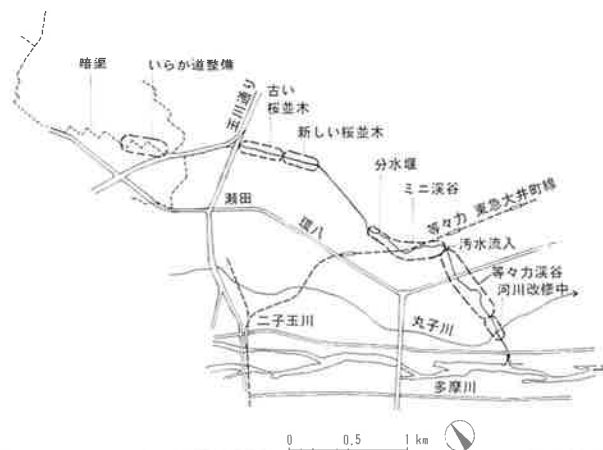
の溪谷の中には湧水の滝として有名な「不動の滝」があり、信者の修行の場となっている。1989年9月と1990年1月の世田谷区による湧水調査では夏期で毎秒約5ℓ、冬期で毎秒約2ℓとされている。しかし、湧水はあるものの生活排水の流入で溪谷の入口から水質は悪化する。透明度も悪く、歩いているとかすかに下水臭がする時がある。

東京都は現在、清流復活事業の一環として野川の支流である仙川から、谷沢川や砧公園内の谷戸川へ浄化した水を放流するための事業を行っている。放流開始は平成6年になる予定で、仙川の東名高速道路高架の下あたりにラバーダムを設け、野川と同様、礫による方式で浄化し毎秒約180ℓが段丘上にポンプアップされ、放流されることになっている。放流水質はBODで5.4ppmとしているが、流下過程でこの放流水質をどれ程改善できるかが課題であろう。また、世田谷区は全区で雨水の地下浸透対策を始めている。これは湧水量の増加にとって大切なことである。

豊かな緑量を持つ等々力溪谷は、水と緑としばしの静寂を求めて、たくさんの人たちが訪れている。清流を復活させるためには、湧水の復活や川の構造改善による自浄化能力の回復、汚水流入のカットなど複合的な対策がなされなければならない。その視点で見ると、等々力溪谷の下で行われている河川改修にその意図が見えないのは私だけだろうか？

文 東京農大

案内図



財団からのお知らせ

《多摩川およびその流域の環境浄化に》 《関する調査・試験研究募集－第二次－》

平成4年度第一次研究助成選考結果は下記のとおりです。学術研究8件、一般研究7件が選考されました。

本年度継続研究を含めても、本年度助成金枠に余裕がありますので、第2次募集を致します。応募についての詳細は財団事務局までご連絡下さい。

公募締切日 平成5年7月30日
 問い合わせ先 〒150 東京都渋谷区渋谷1-16-14 (渋谷地下鉄ビル内)
 電話 (03) 3400-9142 (財)とうきゅう環境浄化財団

〈第一次研究助成選考結果〉

研 究 課 題	代表研究者	所 属
(A類研究)		
●多摩川集水域におけるツキノワグマの生態に関する研究	山崎晃司	東京都高尾自然科学博物館 非常勤学芸員
●多摩川下流域における硫酸還元菌の核酸プローブによる解析とその硫酸還元速度との関係	瀧井進	東京都立大学理学部助教授
●多摩川上流の谷口における山風の吹送と市街地の大気環境との対応	佐藤典人	法政大学文学部地理学教室 助教授
●アウトドア活動が渓流水質(主にLAS)に与える影響の評価	高田秀重	東京農工大学農学部環境資源学科助手
●多摩川流域における両生・爬虫類の分布と分布要因の分析に関する研究	森口一	(財)日本蛇族学術研究所 研究員
●多摩川水系の細胞毒性・遺伝毒性調査	内海英雄	昭和大学薬学部助教授
●大気降下物による多摩川流域への汚染有機物の負荷に関する研究	森永茂生	桐陰学園横浜大学工学部 講師
●多摩川水系の底質および水棲生物中のダイオキシンの分布に関する研究	小野寺祐夫	東京理科大学薬学部講師
(B類研究)		
●伊奈石の採石・加工と多摩川流域の流通についての研究	十菱駿武	山梨学院大学考古学研究室 教授
●明治期の多摩川流域におけるビール業の研究	牛米努	税務大学校租税資料室 研究員
●多摩川のヤナギ林の発達と衰退を通して河川環境を考える	秋山好則	都立武蔵丘高校 教諭
●小中学校の授業における、多摩川環境情報提供システムを活用した環境教育の方法についての研究	棚橋乾	多摩市立西永山中学校 教諭
●多摩川における散乱ごみの実態把握と対策	鈴木徹也	一橋大学社会学部2年生
●多摩川流域および周辺地域の文化的遺産としての古井戸に関する研究	角田清美	都立小平南高校 教諭
●多摩川におけ水面景観の変化に関する調査研究	島村勇二	聖徳大学短期大学部 初等教育学科教授

シンポジウム等開催のお知らせ

- I テーマ 「多摩の水と環境」**
主催 多摩ルネサンスシンポジウム'93
 実行委員会 事務局 0425(87)4787
 (社)東京都地域産業振興協会内
日時 7月5日(月)10時～12時30分
会場 東京農工大学農学部講堂
内容 「水と人間～多摩川を例として」
 講師 高橋 裕 座長 小倉紀雄
 「水生植物による水質浄化」
 講師 細見正明 座長 伊東正安
 「総合討論」 座長 福嶋 司
 コメンテータ 芳村重徳
 行政関係者、企業関係者、学生、市民
- ※ なお、7月1日(木)より11日(日)までの期間、多摩地域の各地の大学、公共施設において、各種テーマによるシンポジウムが開催されます。
- II テーマ 未定**
主催 多摩川シンポジウム実行委員会・多摩川流域協議会
問合せ先 (財)河川環境管理財団 03(3297)2600
日時 7月23日(金)時間未定
会場 川崎市産業振興会館
内容 未定
- III テーマ 夏休み「多摩川教室」**
主催 東京都・神奈川県外
問合せ先 建設省京浜工事事務所 045(503)4011
- 東京都環境保全局 03(5388)3505
 川崎市環境保全局 044(200)2520
- 日時** 8月10日(火)～11日(水)10時～15時
場所 東急田園都市線「二子新地」下車
 徒歩5分の多摩川河川敷内
- 内容** 水生生物による水質検査の実験等
- IV テーマ 「第9回水郷水都全国会議多摩大会」**
主催 水郷水都全国会議多摩大会実行委員会
 事務局 八王子ランドマーク研究会
 0426(23)4082
 (清水司法書士事務所内)
- 日時** 8月28日(土)・29日(日)
主要会場 東京都立大学
- 内容** 8月28日(土)フィールドワーク出発
 9:00 国立市一橋大学正門前
 (コースにより出発時間は異なる。)
 17:00 ワークショップ報告会
 (都立大学大講堂)
 18:00 交流・懇談会
 (都立大学国際交流会館食堂・中庭)
 21:00 解散
 8月29日(日)
 9:00 分科会(都立大学各教室)
 12:00 全体会(都立大学大講堂)
 13:00 解散
- 上記についての詳細、参加方法については、直接主催者にお問合せ下さい。

多摩川'93の発刊について

「多摩川の新たな貌をめざして」のシリーズとして、今年「多摩川に遺されたもの」をテーマに編集しました。

〈総集編〉

多摩川と人間の歴史を振り返るとともに、どういふ時代を経て、どのような関わりあい方をしてきたのか「多摩川の記憶」「多摩川と住民の履歴」として検証し、そして今「多摩川に遺されたもの」として水、歴史・文化、自然の3つの要素にしぼり、その意味、今後のあり方について考察

しました。

〈資料編〉

多摩川と人間の関わりあいの歴史として記録に残された民俗資料を中心に、地域ごとに整理し収録しました。

その大きな項目としては「川や用水の管理」として川普請や水利用とその管理・運営について、また川漁を中心に各地域の「川を利用した生業」として整理しました。また収集資料が多く、筏流しや砂利採取、川遊び等は次号に収録の予定です。

・発行日 平成5年6月1日

・編集兼発行 (財)とうきゅう環境浄化財団
 〒150 渋谷区渋谷1-16-14
 (渋谷地下鉄ビル内)

TEL (03)3400-9142

FAX (03)3400-9141

*印刷所 雄文社 〒336 浦和市常盤9-11-1 TEL(048)831-8125

